

**浪速工業会・親和会共催**

# 日帰り懇親旅行

～旅のしおり～

**テーマ**：「湖北随一の景勝地・賤ヶ岳リフトと長浜散策の旅」

**実施日**：平成24年11月11日

**企画 浪速工業会 事業部**

## 参加メンバー(男性 40名・女性 10名・計 40名)

名前	所属	名前	所属	名前	所属
吉田 豊治	学校	井上 守	白羊会	山崎 充	昭土会
山本 清之	学校	佐久間 充正	白羊会	山崎 令子	昭土会
曾我部 友良	学校	吉川 賢司	白羊会	青山 勇夫	昭土会
杉本 幸一	親和会	森下 信次	白羊会	青山 尚子	昭土会
西田 富子	親和会	近江 巳記夫	青薨会	藤井 敏和	昭土会
廣嶋 健次	親和会	向山 卓寿	青薨会	藤井 ツルエ	昭土会
奥田 明弘	親和会	平林 孝	青薨会	高木 和美	昭土会
佐橋 ゆう子	親和会	帖地 逸八	青嵐会	高木 雅美	昭土会
出来 幸代	親和会	森田 靖治郎	青嵐会	嶋 康仁	昭土会
中橋 由美	P T A	坂本 直治	青嵐会	岩田 正志	舎密会
横山 恵津子	P T A	渡辺 雄二郎	青嵐会	岩井 誠	舎密会
細川 茂	P T A	澤井 孝男	P T A	関根 藤郷	舎密会
長 一雅	P T A			中澤 鉄也	舎密会
長 君英	P T A			藤原 啓治	舎密会

前理事長の岩井 誠さんは、昼食から合流されます。

## 行程と内容(時間は目安です。詳細はその都度案内します。)

7:45 かすがえ公園前集合

会費集金・旅のしおり配布・お菓子お渡し(88 観光寄付)

8:00 賤ヶ岳リフトへ向け出発

事業部長挨拶

運転手と添乗員のご紹介

運転手:

添乗員: 河野 年宏

～車内提供品のご案内～

お手拭・コップ・お飲み物をご用意していますので、

お好きな物をお申し付け下さい。

ビール・ワイン・焼酎(芋・麦)・酎ハイ・ウィスキー

ジュース・お茶

10:30～11:30 賤ヶ岳リフトで登頂

11:30 昼食会場へ向け出発

12:00～13:45 料亭「すし慶」にて昼食

理事長の挨拶・学校長の挨拶・親和会会長の音頭で乾杯!

ビール 40本と焼酎ボトル1本(お湯わり・水割り)

追加は、ビール・日本酒(七本槍・北国街道)・ソフトド

リンクはご自由に注文して下さい。

その他は、自費で個別清算をお願い致します。

14：00 黒壁スクエアーへ向け出発

散策マップを皆さんに配布しますので、楽しい仲間とご自由に散策下さい。

14：30～16：00 黒壁スクエアー自由散策

16：10 都島工業に向け出発

車内で、「東京スカイツリーのすべて」を上演します。

18：30 都島工業前に到着

## **注意事項**

### 1. 点呼について

休憩等での、各乗車ポイントでの点呼は、学校・親和会・PTA・部会単位で行いますので、呼ばれましたら、挙手頂きます様、お願い致します。

### 2. トイレ休憩について

多めに休憩を設定していますが、必要になられた方は、お申し出下さい。

### 3. その他

緊急事項は、事業部長の吉川まで連絡下さい。

090-3670-1682

## 旅の豆情報

賤ヶ岳の戦い（しずがたけのたたかい）

天正 11 年（1583 年）、近江国伊香郡（現：滋賀県長浜市）の賤ヶ岳  
附近で行われた羽柴秀吉（のちの豊臣秀吉）と柴田勝家との戦いで  
ある。織田勢力を二分する激しい戦いとなり、秀吉はこの戦いに勝  
利することによって織田信長の作り上げた権力と体制の継承者とな  
ることを決定づけた。

賤ヶ岳の七本槍

秀吉方で功名をあげた兵のうち以下の 7 人は後世に賤ヶ岳の七本槍  
（しずがたけのしちほんやり）と呼ばれる。実際に感状を得、数  
千石の禄を得たのは桜井佐吉、石川兵助一光も同様である。7 人と言  
うのは後の語呂合わせで（ただし彼らが挙げたとされる手柄は勝利  
が確定した後の追撃戦によるもののみであり、一番手柄も大谷吉継、  
石田三成らの先駆衆と呼ばれる武士達に与えられている）後の豊臣  
政権において大きな勢力をもったが、譜代の有力な家臣をもたなか  
った秀吉が自分の子飼いを過大に喧伝した結果ともいえる。福島正  
則が「脇坂などと同列にされるのは迷惑だ」（中傷の意図も否定でき  
ない）と語ったり、加藤清正も「七本槍」を話題にされるのをひど  
く嫌ったなどの逸話が伝えられており、当時から「七本槍」が虚名

に近いという認識が広まっていたと推定される

- 福島正則（1561年 - 1624年）・加藤清正（1562年 - 1611年）
- 加藤嘉明（1563年 - 1631年）・脇坂安治（1554年 - 1626年）
- 平野長泰（1559年 - 1628年）・糟屋武則（1562年 - 1607年）
- 片桐且元（1556年 - 1615年）

黒壁とは

明治時代に第百三十銀行長浜支店として建築され、その外壁が黒漆喰の様相から『黒壁銀行』『大手の黒壁』の愛称で親しまれていた建物を、その保存と中心市街地の活性化の拠点としての活用を目的に、民間企業より8名の有志が集い、長浜市の支援を受け出資総額1億3千万円で、昭和63年4月、第3セクター株式会社を設立しました。

建物の修復と復元を進める中、郊外型大型店舗の進出により、400年の歴史を持つ中心商店街の長年に亘る沈黙と低迷からの脱出と活性化の起爆剤となるべく、伝統地場産業にとらわれない、また3セクであることから、既存民業を圧迫することのない、長浜から全国へ、情報発信足りえる事業を模索します。

また、郊外中央資本の大型店舗の脅威にさらされない、住み分けできる町としての建物、風情を含めた『歴史性』、祭りを含めた『文化芸術性』、そして世界を視野に入れた『国際性』、この3つのコンセプトを内在した事業を捜し続けます。

当時、国内大手ガラスメーカーを除いては、多くが、個人作家活動の域もしくは土産物の域を出ていなかった『ガラス』に着目、黒壁は本物のガラス文化の追及と事業化による国内初のガラスの本場の創成を目指すこととなります。はからずもガラスは、歴史性、文化芸術性、国際性の理念を内在していました。人が一人も通らない町に、現在では年間210万人（平成14年度）の来街者を、街をあげて迎えております。黒壁はガラスショップ、工房、ギャラリー、ガラス美術館、レストランなど10館（長浜市内）を直営。グループ館として黒壁まちづくりに参画する20館と共に、街の求心力を高め、理念の拡大と充実が『ガラス工芸とまちづくりを融合させた総合文化サービス業』を創生させました。

黒壁ガラス、まちづくり、経営ノウハウ等多面にわたる実績と、永年受け継ぐ長浜人の進取をもって果敢に挑戦し、全国の疲弊した

中心商店街再生の希望の礎となり、世界の歴史と対話しつつ、同時に未来に想いを馳せる企業として邁進してまいります。

## **ご祝儀・ご寄付御礼**

この度の親睦旅行に際し、協力いただきました、関係各位の方々、誠にありがとうございました。心より御礼申し上げます。

ご祝儀

浪速工業会・親和会・山崎理事長

ご寄付

会員部長 酒類各種・事業部長 ビール・88観光 お菓子

## **メモ欄**